

新産地報告

所沢 あさ子 *

ヒメアギスミレ(スミレ科)

Viola verecunda A.Gray var. *subaequiloba* (Franch. et Sav.) F. Maek.

飯田市や阿智村のハナノキ湿地や湧水湿地周辺にはツボスミレの湿原型アギスミレとされてきたものは、茎が匍匐し節から発根があるので、多くがヒメアギスミレの可能性がある。

ツボスミレの湿原型にヒメアギスミレとアギスミレがある。ヒメアギスミレは茎が匍匐性を持ち、節から発根する。本州(愛知県以西)・四国九州に分布する。アギスミレもヒメアギスミレと同様に葉が三日月型となり、北海道・本州(中部地方以北)に分布する。

ハナノキ湿地では4月中旬から5月中旬にかけて咲くアギスミレと思われていたスミレがある。花期では確認できないが、葉がツボスミレの形からから三日月型にかわり、匍匐し、茎の節に根が見つかる。ヒメアギスミレの可能性が高いと思い1年を通して観察した。

【調査】

調査は2021年、2022年に飯田市と阿智村のハナノキ湿地と湧水湿地群において、主に発根が分かりやすい、夏から秋にかけて行った。

茎の節から発根している個体の数を数え、一部は標本、写真を撮った。

【結果】 標本 AS は所沢あさ子の標本番号

A地区(ハナノキ湿地): 飯田市箱川地区 595m



写真1. 匍匐するヒメアギスミレ 2021.10.12 阿智村

2021年7月18日 AS5675。580m 2022年10月4日 AS5774。AS5775。

・2022年10月3日茎の節の発根9個体以上。その他確認したほとんどの個体に、節に根あった。他に湧水湿地群に群生。

B地区(湧水湿地群、沢沿い): 飯田市山本西平三の沢 775m 2022年7月13日 AS5715。785m 2022年10月1日 AS5771。AS5772。

・茎の節の発根30個体。無いもの5個体。他に湧水湿地周辺に群生。

C地区(湧水湿地群、沢沿い) 飯田市山本南平石原山西側 865m 2022年6月29日 AS5705。874m 2022年7月13日 AS5720 AS5721 AS5722。882m AS5725。

・茎の節の発根27個体。見たもののほとんどに根があったが、7月では節から出る根は細く長さ7mm程度で確認が難しい。発根がある節には閉鎖花があるものも確認された。

D地区(湧水湿地群) 飯田市北平吉中林 770m 2022年10月19日 AS5780。

E地区(ハナノキ湿地) (写真1.2) 阿智村伍和備中原 2021年10月12日。13日。

【まとめ】

下伊那郡の湧水湿地群に生育するツボスミレの変種は今までほとんどをアギスミレとされてきた。それを夏から秋にかけて調べると、飯田市や阿智村のハナノキ湿地や湧水湿地群周辺では、多くの個体で



写真2. 節から発根するヒメアギスミレ
2021.10.13 阿智村



写真3. オオハシカグサ 2022.9.1 山本

写真4. オオハシカグサはがく筒に毛がない。
2022.9.10 山本写真5. ハシカグサはがく筒に毛がある。
2021.9.19 山本写真6. 左下オオハシカグサと混生する右
ハシカグサ 2022.9.19 箱川写真7. エドヒガンの古木に着生し花をつけた
ヤシビシヤク 2022.4.13 山本

写真8. ヤシビシヤクが実った。2022.11.25 山本



写真9. ベニイロミヤコイバラ (所沢) 2016.6.15 箱川

茎が地面に伏して匍匐し、節から発根が確認でき、ヒメアギスミレがかなりの個体数で群生していることが分かった。

オオハシカグサ(アカネ科)

Neanotis hirsuta(L.f.)W.H.Lewis var. *glabra* (Honda)
H.Hara

飯田市の2か所のハナノキ湿地周辺で南信州では希なオオハシカグサを見つけた。そこはオオハシカグサとハシカグサ *Neanotis hirsuta* (L.f.)W.H.Lewis var. *hirsuta* と混生している個体もあった。

筆者は山本西平で30年ほど前にオオハシカグサを発見してから伊那谷と木曽谷南部を中心に本種に注目してきた。湧水湿地や林縁などの半日陰にハシカグサは沢山あるがこの地域ではオオハシカグサの生育は大変少ない。

A地区：飯田市山本西平 695 m オオハシカグサ(写真3. 4)とハシカグサ(写真5)が混生。

B地区

標本1：飯田市竹佐長田 568.2 m 2018年9月11日採集 標本番号 AS5303。

水田脇の草地の道。標本は2019年2月19日藤田淳一氏によって同定済。近くにハシカグサもある。

2：飯田市箱川 570m 2022年9月10日採集 AS5753

※ハシカグサ AS5752 と混生 (写真6)

※標本1と2は側溝を挟んで10mほど離れているだけなので1か所とする。

オオハシカグサの分布は中部地方の日本海側から東北地方とされている。長野県でも飯田市座光寺(藤田)、南木曽町があるが主に栄村、飯山、小谷村、白馬と北に偏って報告されている。他に筆者が2021年9月23日根羽万場瀬の水田の土手で半分ほどに刈り取られた本種を確認している。南信州でも希であるがオオハシカグサが生育している。

ヤシャビシャク(スグリ科)

Ribes ambiguum Maxim.

大変珍しいことにヤシャビシャクが飯田市山本標高 670 m、人家の樹齢500年と言われるエドヒガンの幹に着生している。(写真7) ヤシャビシャクは落葉性の小低木。本州・四国・九州に分布し、よく発達した温帯林の老木上に生えるが、少ない。中国西部にも産する。

下伊那では風越山標高 1567m、禿岳、のブナに着生しているのを見たことがある。今回ヤシャビ

シャクを見つけたのはエドヒガンの満開の時期。所有者の原君子さんの話では、エドヒガンに着生は良くないと今まで何回も抜き取っていたとおっしゃった。残った株であったが、その時花は咲いていて、11月には実もあった。

(写真8)

「ベニイロミヤコイバラ」

ミヤコイバラ(バラ科) *Rosa paniculigera* (Koidz.) Makino ex Momiy. の縁が紅色の美しい品種を発見。(写真9)「ベニイロミヤコイバラ」とする。(2023所沢)

ミヤコイバラの花は白花が普通。ベニイロミヤコイバラは飯田市箱川ハナノキ湿地に2018年まで1個体確認。その後日陰のせいか不明。筆者は2016年に枝を30cm程採集し自宅にて挿し木で育てたところ2022年紅色の花が咲いた。今後自生地にて挿し木で保存したい。

このベニイロミヤコイバラは花径3~3.8cmで花柱に毛が多い(2008年6月19日メモ)。小葉は7から9個。頂小葉と側小葉の大きさは2cm~3.8cm。葉裏は白っぽい。葉軸には刺と腺毛がある。花柄に腺毛がある。

ミヤコイバラの分布は日本の固有種。本州(静岡県西部・新潟以西)・四国(北部)・九州(北部)にある。主として中央構造線以北(西南日本内帯)に分布。乾いたところに多いとされるがここでは湿地のそば。半日陰に生育していた。

標本：飯田市箱川 590 m 2016年6月15日採集 AS5815。

謝辞

オオハシカグサの生育する土地所有者の吉沢直己氏、鈴木菊人氏、ヤシャビシャクの所有者の原豊秋氏、君子氏、そのほかヒメアギスミレ等土地所有者の皆様、標本の同定でお世話になった藤田淳一氏に心から感謝申し上げます。

参考文献

- 門田 裕一(2021)スミレ科 44. ツボスミレ・アギスミレ・ヒメアギスミレ フィールド版日本の野生植物Ⅱ P60 PL.45
長野県植物目録編纂委員会(2017)スミレ科ヒメアギスミレ 長野県植物目録

内貴 章世 (2021) アカネ科 【22】 ハシカグサ属 1.
ハシカグサ、オオハシカグサ フィールド版 日
本の野生植物 II P299 PL340
長野県植物目録編纂委員会 (2017) アカネ科オオハ
シカグサ・ハシカグサ長野県植物目録
五百川 裕 (2021) スグリ科ヤシャビシヤク フイ
ルド版日本の野生植物 1 P406 PL.400
長野県植物目録編纂委員会 (2017) スグリ科ヤシャ

ビシャク 長野県植物目録
池田 博・池谷 祐幸・勝木 俊雄 (2021) バラ科ミヤ
コイバラ フィールド版日本の野生植物 p529,
530 PL. 543
長野県植物目録編纂委員会 (2017) バラ科ミヤコイ
バラ 長野県植物目録
石井 英美 (2000) 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花
離弁花①バラ科